（3） メ ロ ン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani* *Pythium spinosum*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床内を乾かす。 4.発病株は除去し、処分する。	土壌消毒	－ － －	クロールピクリン ガスター ド微粒剤 バスアミド微粒剤
		発病初期	M4	オーソサイド水和剤８０
	〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。 2.ガスタード微粒剤、バスアミド粉粒剤は、リゾクトニア菌による苗立枯に登録がある。			
2 つる割病 *Fusarium oxysporum* f.sp.*melonis*	1.カボチャ台木、抵抗性台木用メロンに接ぎ木する。 2.耐病性品種を用いる。	植付前	－ －	ガスター ド微粒剤 バスアミド微粒剤
	3.畑は５～６年、水田は２～３年以上輪作する。 4.石灰質肥料を施し、酸性を矯正する。 5.発病株は除去し、処分する。 6.ウリ類の連作はつる割病の発生を助長する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。			
3 炭疽病 *Colletotrichum orbiculare* *C.aenigma* *C.gloeosporioides*	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。	発病初期	M1 M3 M4	キノンドー水和剤４０ ジマンダイセン水和剤 オーソサイド水和剤８０
4 つる枯病 *Didymella bryoniae*	1.発病苗は本畑の伝染源となるので植えない。 2.被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 3.ポリマルチや敷わらをする。 4.排水をよくする。 5.発病株は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブル、アミスター２０フロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので避ける。 2.トップジンMペーストは病患部を削り取ってから塗布すると効果的である。	育苗期 （２～３回） 本畑 （発病前から）	1 2 3 7 11 11 M3 M3 M3 M4 M5 M7 7･M5 11･M5 21･M5 40･M5 M7･50	トップジンＭ水和剤 ロブラール水和剤 スコア顆粒水和剤 アフェットフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル オーソサイド水和剤８０ ダコニール１０００ ベルクート水和剤 （混）ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル （混）ドーシャスフロアブル （混）プロポーズ顆粒水和剤 （混）ラミック顆粒水和剤
		発病初期	1	トップジンＭペースト
		ハウス内防除（くん煙）	2	ロブラールくん煙剤
5 疫病 *Phytophthora nicotianae*	1.連作を避け、圃場の衛生に努める。 2.圃場の排水をよくするとともに、高うねにする。 3.ポリマルチや敷わらをする。	発病前から	M3	ジマンダイセン水和剤
6 べと病 *Pseudoperonospora cubensis*	1.連作を避け、圃場の衛生に努める。 2.排水をよくし、多湿にならないようにする。 3.敷わらまたはポリマルチをする。 4.ハウスでは日中の換気を十分に行う。 5.病葉は早めに摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象に防除を実施しているところでは、疫病の発生が少ない。 2.ストロビーフロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので避ける。 3.ゾーベックエンテクタＳＥは高温時に散布すると葉に薬害を生じることがあるので注意する。また、薬害を助長することがあるので展着剤の加用はしない。	発病前から	11 21 P7 M1 M1 M1 M3 M3 M3 M3 M5 3･M3 M3･4 4･M5 7･M5 11･M5 21･M5 40･M5 21･49	ストロビーフロアブル ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 Ｚボルドー ヨネポン ヨネポン水和剤 ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセンフロアブル ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル ダコニール１０００ （混）テーク水和剤 （混）リドミルゴールドＭＺ （混）フォリオゴールド （混）ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル （混）ドーシャスフロアブル （混）プロポーズ顆粒水和剤 （混）ゾーベックエンテクタＳＥ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

メロン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 うどんこ病 *Sphaerotheca fuliginea*	1.生育後半には老化した下葉を摘除し、通風と採光を図る。 2.収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 3.耐病性品種を栽培する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類にも登録がある。 2.サンマイトフロアブルはアブラムシ類、ハダニ類にも登録がある。 3.クリーンワイドフロアブルはノーネット系メロンでは薬害が生じる可能性があるので使用しない。	発病初期から	3	トリフミン水和剤
			3	ルビゲン水和剤
			3	サプロール乳剤
			3	ラリー水和剤
			7	アフェットフロアブル
			9	フルピカフロアブル
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			ー	サンマイトフロアブル
			M1	ヨネポン
			M1	ヨネポン水和剤
			-	サンヨール
			M7	ベルクート水和剤
			M10	モレスタン水和剤
			M10	パルミノ
			U6･3	（混）パンチョＴＦ顆粒水和剤
			7･M5	（混）ベジセイバー
			21･M5	（混）ドーシャスフロアブル
			M7･50	（混）ラミック顆粒水和剤
			M7･53	（混）フセキワイドフロアブル
			M2･M1	（混）クリーンワイドフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	3	トリフミンジェット
			U6･3	（混）パンチョTFジェット
8 斑点細菌病 *Pseudomonas syringae* pv. *lachrymans*	1.ウリ科以外の作物と輪作を行う。 2.被害茎葉は早めに処分する。 3.多湿条件で発病しやすいので、湿度管理には注意する。 4.ポリマルチ栽培を行う。	発病初期	M1	コサイド３０００
			M1	ドイツボルドーＡ
			M1	Ｚボルドー
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			24･M1	（混）カスミンボルドー
			24･M1	（混）カッパーシン水和剤
9 黒点根腐病 *Monosporascus cannonballus*	1.被害残さを除去する。特に根部は完全に除去する。 2.土壌伝染し、メロンの他、ウリ科も侵すので、接木では防除できない。 3.発病株は早めに抜き取り、適正に処分する。 4.30℃付近に病原菌の発育発病適温があるので、夏期のハウス栽培のメロンで発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	-	クロールピクリン
			-	ドロクロール
			-	ガスターード微粒剤
			-	バスアミド微粒剤
			-･-	（混）ソイリーン
			-･-	（混）ダブルストッパー
		定植時	14	リゾレックス水和剤
		生育期	14	リゾレックス水和剤
10 モザイク病 ＣＧＭＭＶ	1.無病種子を使う。 2.病苗は早く、発見して処分する。 3.健全苗を植える。 4.汁液による接触伝染が激しいから、接木、芽かぎ、整枝に当っては第３燐酸ソーダ液で資材、履物等を消毒する。 5.発病地には、ウリ類を３～４年栽培しない。 6.発病株は抜き取って適正に処分する。 7.遅く発病したものは作業時に触れないようにし、手入れは最後にする。 8.種子、土壌、接触によって伝染し、アブラムシでは伝染しない。			
11 アブラムシ類 （モザイク病 ＣＭＶ ＺＹＭＶ ＰＲＳＶ Ｐｏｔｙｖｉｒｕｓ）	1.苗床及び本畑周辺の罹病植物を取り除く。 2.圃場の周辺に防虫ネットを高さ1.3mぐらいにはったり、シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープをするとアブラムシの飛来が少ない。 3.施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 4.病株は早めに処分する。 5.周辺雑草を処理する。	育苗期	4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スターークル粒剤
		育苗期後半	4A	ダントツ粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
		定植時	4A	アクタラ粒剤５
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スターークル粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
		発生初期	3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウト乳剤

メロン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	アーデント水和剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	チェス顆粒水和剤
			29	ウララＤＦ
			3A･15	（混）ビリーブ水和剤
		ハウス内防除（くん煙）	3A	テルスタージェット
			4A	モスピランジェット
			29	ウララくん煙剤
12 コナジラミ類 13 タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）	1.施設栽培では苗による持込みに注意する。 2.施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.夏期には栽培終了後にハウスを密閉して高温に保ち、熱殺する。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. テルスター水和剤、カスケード乳剤、アタブロン乳剤は、タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）に登録がある。	育苗期	4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半	4A	ダントツ粒剤
		定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	3A	テルスター水和剤
			3A	トレボン乳剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			6	コロマイト乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			21A	サンマイトフロアブル
			29	ウララＤＦ
			-･5	（混）ダブルシューターＳＥ
14 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニ類の増殖源となるので、早めに処分する。	発生初期	6	コロマイト水和剤
			10B	バロックフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			21A	ダニトロンフロアブル
			25A	ダニサラバフロアブル
			-･5	（混）ダブルシューターＳＥ
		ハウス内防除（くん煙）	3A	マブリックジェット
			3A	テルスタージェット
			3A	ロディーくん煙顆粒

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

メロン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
15 ミナミキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 7.周辺雑草を処理する。 8.ハウス等、温度の高いところで越冬するので注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.発生初期に集中的に防除する。	育苗期	1A	バイデートＬ粒剤
		定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	3A	アグロスリン乳剤
			3A	アーデント水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	ダントツ水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			15	デミリン水和剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			-・5	ダブルシューターＳＥ
			3A・15	（混）ビリーブ水和剤
16 トマトハモグリバエ	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。	育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		定植時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	ダントツ水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			15	カスケード乳剤
			28	プレバソンフロアブル５
			-・5	ダブルシューターＳＥ
17 センチュウ類	1.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するるため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。 2。キルパー、ネマトリンエース粒剤、パストリア水和剤、ガードホープ液剤は、ネコブセンチュウに登録がある。 3.ソイリーン、ダブルストッパーは、ネコブセンチュウとネグサレセンチュウに登録がある。	土壌消毒	8F	キルパー
			8A・8B	（混）ソイリーン
			8A・8B	（混）ダブルストッパー
			8A・8F	（混）ディ・トラペックス油剤
		定植前	1B	ネマトリンエース粒剤
			-(生)	（生）パストリア水和剤
		生育期	1B	ガードホープ液剤
18 ケラ	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダイアジノン粒剤３はネキリムシ、タネバエにも登録がある。	植付時	1B	ダイアジノン粒剤３
19 ウリハムシ	1.シルバーポリフィルムによるマルチを行う。	発生初期	4A	ダントツ水溶剤
20 キボシマルトビムシ		生育初期	1B	ダイアジノン水和剤３４
			1B	ダイアジノン乳剤４０
21 ワタヘリクロノメイガ （ウリノメイガ）	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	発生初期	-・5	ダブルシューターＳＥ